

筆者は大学卒業後、有床義歯を中心とした歯科補綴学を専攻し、大学院修了後は大学の機構改革により総合診療へ移行した。総合診療を行うなかで、とくにポーセレンの多色築盛によるオールセラミッククラウンに夢中になっていった。そこから発展し、コンポジットレジンマルチレイヤーテクニックに興味をもちはじめた。

2010年に米国ミネソタの3M ESPE社で研修させていただく機会を得たことが、筆者の歯科医師人生における大きなターニングポイントとなった。Iowa UniversityのMarcos Vargas先生と出会い、レクチャーを受けたことをきっかけにダイレクトボンディングにのめり込んでいき、現在に至っている。

本書の内容は、Marcos Vargas先生から習ったマルチレイヤーテクニックをベースに、片岡繁夫先生や青嶋 仁先生から習ったカービングによって習得した歯の形態や表面性状の捉え方、顕微鏡を用いた精密で確実性の高い修復法を組み合わせた「歯の内部構造を再現した精密で確実性の高い前歯部ダイレクトボンディング」である。

デジタルデンティストリーが急速に拡大している時代であるが、デジタルでは対応できない低侵襲で確実かつ審美的なダイレクトボンディングもまた求められている。デジタルかアナログかの議論の前に、修復治療で再現すべき天然歯を深く理解することが大切である。歯の色調、形態、表面性状、経年変化などマニアックな内容ばかりを扱ったクセの強い一冊であるが、本書がその一助となれば幸いである。

2021年1月
菅原佳広